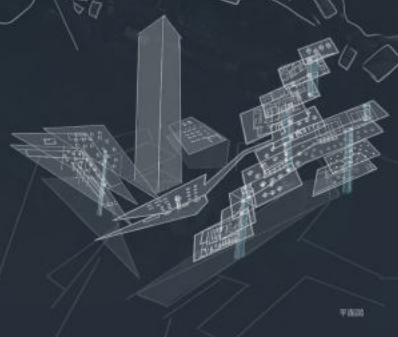
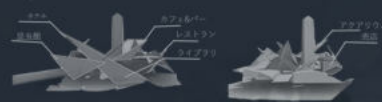


背景・目的

東山動植物園に隣接する東山スカイタワーは、1989年に名古屋市創100周年を記念して建設された展望台である。建物高さ96mを有すること、周りに高い建築物がないことから地域のランドマークと認識されているが、展望台以外の利用目的が少ないため、活用できていない。そこで東山スカイタワーを中心になるような周辺の活性化を行い、人と建物(人工物)と自然の三点を融合させ、ランドマークとしてさらに多くの機能を果たす空間を作り、入場者の増加と三点の混ざりにより生まれる学習の場を提案する。



平面図



エントランス、カフェ、レストラン、ライブラリ、エスカレーター、エレベーター

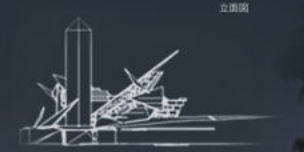
ゾーニング



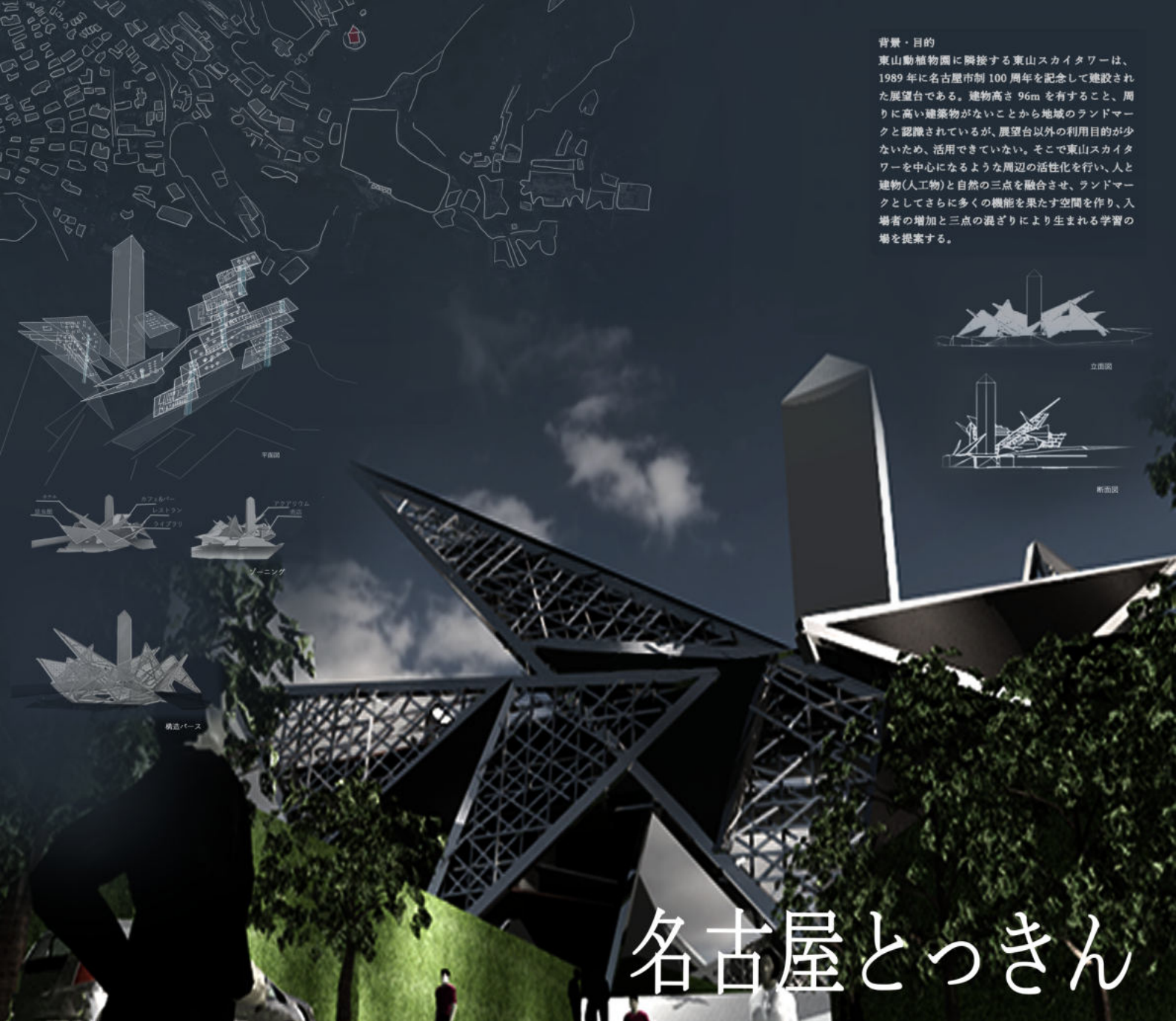
構造ベース



立面図



断面図



名古屋とつきん



動線

スカイタワーを囲むような配置にシームレスに動線を確保し、スカイタワーへの誘導を促す

遠方から見る場合、全体のデザインが見える一方、スカイタワー付近では、周りの構造物により、スカイタワーが隠れるような視覚効果を与え、ことによりインパクトを出す



ラメン構造を用いた荷重の補助。



転倒モーメントはRC基礎を大きくすることにより対応。基礎工事は既存RC部のみとし、主筋系への配慮をする。



遠方からも見ることができるようにするために高さを必要とするため、鋼管を用いたトラス構造とする。



森林伐採の量を減らすため、建物の投する面積が少ない三角形を用いる。



建物の自重を小さくし、スカイタワーとの調和したデザインとするため建物先端を軽体にする。



ライブラリ

休憩スペース

見本館